

「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」

本年も全国的に実施されました「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」(5月1日から9月30日まで)

熱中症による死傷災害(休業4日以上)の取りまとめ結果はグラフのとおりです。

- ・WBGT測定器や温度計の備え付け等

作業場のWBGT値や気温を実測し、まずは現場の実態を把握することが重要です。これらの測定のために必要な器具を備えるようにしましょう。また、実測値がWBGT基準値を超えるような作業場所について、冷房、屋根、熱の遮蔽物の設置等によりWBGT値の低減を図ることが最も本質的な対策です。

- ・熱順化期間に注意

グラフでも明らかなように、梅雨から夏季になる時期など急に暑くなった場合、作業者が熱に順化(熱に慣れて適応すること)していないために熱中症を発生するケースが非常に多くみられます。作業場のWBGT値や気温が急に上昇したときは、休憩を多めに設定するなどし、作業時間を徐々に増やし、体を慣れさせる期間を設けるようにしましょう。また、暑熱な場所での作業をしていなかった作業者が新たに作業に従事するような場合も同様に順化期間が必要となりますので、配慮しましょう。

グラフ：下記に示します。

リーフレット：<https://jsite.mhlw.go.jp/aichi-roudoukyoku/content/contents/000256073.pdf>

最高気温の推移と熱中症発生状況

